探究力評価への挑戦

主に大学入試における事例

令和４年４月
内閣府科学技術・イノベーション推進事務局
文部科学省

はじめに

調査概要／目的

- 2022年度から全面実施となる新学習指導要領に基づき、高等学校において「総合的な探究の時間」等における問題発見・課題解決的な学習活動の充実が図られることとなっています。
- 高校生や大学生が自らの関心に基づいて、課題の発見や仮説の設定、実験・調査といった一連の課題解決・価値創造に向けたプロセスなどを学ぶ探究的な活動は、新しい時代に求められる重要な力につながるものであり、探究的な活動を通じて身につく能力・資質等を大学入試等で評価する取組が求められています。
- 内閣府科学技術・イノベーション推進事務局において、第 6 期科学技術・イノベーション基本計画を踏まえ、文部科学省の協力も得ながら、大学の入学者選抜や企業の就職採用試験の際に、探究的な活動を通じて身につく能力・資質等の評価を適切に活用しているグッドプラクティスを調査し、積極的に横展開するための事例集を作成しました。
- 本調査は、グッドプラクティスの横展開を通じて、大学や企業を含め、社会全体が学びを支える環境整備を目的としています。本事例集が、大学や企業の現場において、それぞれの学校や地域の特色に応じ、次代に求められる探究的な学びの成果の評価を活用する一助となれば幸いです。

【参考】第６期科学技術・イノベーション基本計画（令和３年３月26日閣議決定）
②外部人材・資源の学びへの参画・活用
〇2021 年度に、大学の入学者選抜や企業の就職採用試験の際に、探究的な活動を通じて身につく能力・資質等※の評価を適切に活用しているグッドプラクティスを調査し、積極的に横展開を進める。また、 2022 年度より、こうした取組を実施している大学や企業の件数（又は割合）等について集計し、公表する。 【 科技、文、経 】

※例えば、高校段階において身に付けた「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度（学力の三要素）が挙げられる。

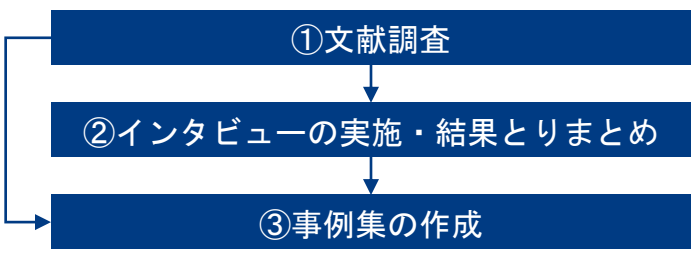
調査方法

- 調査対象

  国内大学、国内民間企業

- 調査手法

  デスクトップ調査で有望な取組を調査、セグメントごとの多様な試験方針にアプローチ、業界有識者インタビューで業界全体の方向性・詳細事例を調査



探究力評価

大学入試における事例

桜美林大学
探究入試Spiral

実績よりも経験に基づく探究力を評価

探究的な経験を重視し、実績ではなく学びを重視。探究的な経験は、授業、課題研究、部活動、委員会活動、課外活動、自主活動等、活動の形式は問われない。書類（探究学習報告書/活動報告書）選考と面接が主な評価手段。探究活動の経験を大学での学びへとつなげるための入試方式。不確かな時代において、主体的に課題を設定し、協働的に取り組む人材の育成を目指す。

一般選抜　**総合型選抜**　学校推薦型選抜

スケジュール｜2022年度入試

- 一次審査(出願締切)
  第1回:2021年9月9日 第2回:2021年11月4日
- 二次審査
  第1回:2021年10月23、24日
  第2回:2021年12月11、12日

対象学部｜募集人員

- リベラルアーツ学群｜20名程度
- ビジネスマネジメント学群｜15名程度
- 健康福祉学群｜若干名

選抜方法

一次審査:書類審査｜主な出願書類は5点

入学志願者調書　高等学校の調査書等　志願者評価書
活動報告書　探究学習報告書　※その他、出願書類有

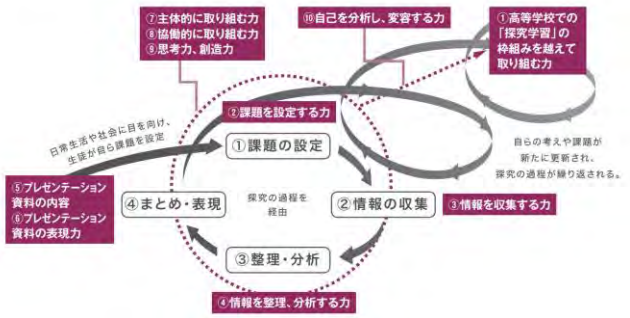
右図の①～⑩の評価基準に基づいて、特に「探究学習報告書」「活動報告書」を中心に書類審査を実施

二次審査:面接｜探究経験の深堀

- 探究学習に関するプレゼンテーション(5分程度)
- プレゼンと出願書類の質疑応答(20分程度)

※課題図書を課している学群は、課題図書の内容についても質疑。

桜美林大学探究入試（Spiral）評価視点



実施までの道のり ▶ 探究力の考え ▶ 評価の観点

学生を育て、入試に繋げる必要

大学として、少子化の中での学生確保が大きな課題。学生に選ばれる大学になる必要があると同時に、学生を育てて入学につなげる必要性を認識。高校生に探究的な機会与える教育プログラム「ディスカバ！」を2017年より開始し、規模を拡大し、実際に探究入試の実施にまで至った。一般入試や共通テストで測ることのできる部分は限定的と考えている。

学習指導要領に準じた探究力

高校では、探究の時間について、学習指導要領を読み検討が行われていること、高大接続を踏まえ、学習指導要領に沿った入試とすることで高校の教育現場との親和性を高める方向性とした。高校生は志望理由、学習計画、自身の将来を言語化できないという大学生の就職活動と共通の課題にも着目し、ディスカバ！で当該プロセスを提供・育成。

探究のSpiralに基づく評価

探究入試では、指導要領に忠実な評価基準・手法を採用。高校時代に学生自身が頑張れる範囲の中で、一生懸命取り組んできた学生を評価。なお、ディスカバ！の取組の過程と探究入試の取組は切り離しており、ディスカバ！の取組の中では評価を行わない。高校での探究学習のゴール・育成目標と、大学のアドミッションにおいて学生に求める資質のをすり合わせるため、評価基準を公開。

効果・成果（ディスカバ!についての効果・成果）

探究入試Spiralは2021年度より導入された入試であり、具体的な成果があらわれるのはこれからである。その前段階として、高校生に探究的な機会与える教育プログラム「ディスカバ！」は2017年より開始され、2020年度は70プログラム、約2,700人が参加し、2021年度は9,000人程度が参加し、年間1万人に迫るペースで規模が拡大している。

9,000 人の育成

ディスカバ！には、2020年度は70プログラム、約2,700人が参加、2021年度は約9,000人が参加し、年間1万人に迫るペースで規模を拡大。

参加者の約 20 %が受験

ディスカバ！への参加者のうち、約20%が桜美林大学を実際に受験しており、学生を育て、入試に繋げられている。

約 30 校との連携

ディスカバ！の取組は現在では広がっており、30校程度の学校と連携。EdTechやGIGAスクール構想の流れも後押しとなる。

出所)桜美林大学（ https://admissions.obirin.ac.jp/spiral/)及び大学担当者へのインタビュー結果より

大阪大学
総合型選抜 研究奨励型/挑戦型

具体的な研究実績を評価

同大学内で理学部において、総合型選抜内に研究奨励型、挑戦型の２種類の選抜方法を設置。高校生向けの研究支援プログラムであるSEEDSプログラムにおいて探究力を養成し、出願要件にもつなげている。

一般選抜 | 総合型選抜 | 学校推薦型選抜

スケジュール｜2022年度入試

- 第1次選考(合否発表):2021年12月10日
- 第2次選考:2021年12月19日

対象学部｜募集人員

- 理学部｜33名

文学部、人間科学部、外国語学部、法学部、経済学部、理学部において総合型選抜が実施されているが、理学部のみ研究奨励型/挑戦型を実施。
研究奨励型は化学科、生物科学科で実施、挑戦型は数学科、物理学科で実施。

選抜方法

研究奨励型

【 求める学生 】
実験などを通して科学を楽しみ、高校などで自主的に研究活動を行った学生
【 提出書類 】
①志望理由書、②研究成果概要「A.研究の要旨:500字程度」「B.研究の内容:A4用紙7枚以内」「C.研究に対する志願者の貢献度」、③調査書、④出願要件の証明書類
【 評価方法 】
第1次選考:書類選考
第2次選考:口頭試問(研究成果のプレゼンテーションを含む)
- A0判のポスターを持参して10分程度プレゼン、その後20分程度質疑

挑戦型

【 求める学生 】
自分自身の頭脳でどこまでも粘り強く考察して真理を探究・発信したい学生
【 提出書類 】
①志望理由書、②高等学校等で行った課外活動の実績(自由研究、海外留学、社会貢献活動等)、③教員の意見書、調査書、④課外活動の実績証明書類
【 評価方法 】
第1次選考:書類選考
第2次選考:小論文・口頭試問

【 配点 】共通　共通テスト:100点　提出書類及び口頭試問:100点

SSH生徒研究発表会や著名なコンテストの出場者、学会発表者等に加え、大阪大学SEEDSプログラム(SSH非在籍の高校生も含む、研究に興味を持つ高校生に大学での研究機会を与えるプログラム)修了者も出願要件に含まれる。

実施までの道のり

多面的・総合的評価の必要性

全学での入試方法の変更は、2016年前後の多面的・総合的評価による大学入試(一点刻みに依らない入試)の導入の流れが生まれたことが契機。本学も定員の10%を入学させることを目指し、多面総合的入試を行うこととした。加えて、2016年より前に、面接による推薦入試の実績があり、現在の入試方法の導入につながる。

探究力の考え

自ら課題を発見し解決できる人材

アドミッションポリシーでは、主体的に探究する意欲のある人を求めており、「探究力」を持つ人材としては、「自ら課題を発見し解決できる人材」。探究学習で研究をした学生であれば誰でも出願可能としており、実感コースのSEEDSプログラム修了者も出願可能。

評価の観点

研究(探究)の実績・実力を評価

奨励型では、実験などを通して自主的に研究活動をする人材を志向しており、研究発表、口頭試問、共通テストの成績で評価。挑戦型は、真理を探究する人材を求め、志望理由に加え、高校の課外活動に関して数物での活動実績を評価。書類審査だけでは不十分であり、小論文あるいは数学・物理の専門課題を課し、口頭試問も交えて志願者の説明も評価。

効果・成果 (全学の総合型選抜の効果・成果)

総合型選抜・学校推薦型選抜入試を取り入れてから初めて卒業を迎えた学生の追跡調査(AO・推薦入学者追跡調査)を実施。成績(GPA)の平均推移や、学生による自己評価、教員による評価などの観点から、一般選抜の入学者と比較して、AO・推薦入学者が優位な結果が確認されている。また、AO・推薦入学者の方が、一般入試の入学者よりも、ゼミを引っ張るリーダー的存在として、また、周囲に良い影響を与えているとの高い評価も得られている。

高い GPA を示す

GPA(成績)の平均の推移について見ると、一般選抜の入学者と比較して、文理共にAO・推薦入学者が勝る結果となった。

高い 主体性

自主研究奨励事業として、大学1年次から希望があれば、(学生に対して)大学の予算を付けて研究ができる制度があり、AO・推薦入学者は積極的に参加する傾向を得た。

教員 からも高い評価

学生をよく知る教員に対して調査を行い、研究の主体性・自立性について、全ての項目において、一般選抜の入学者と比較して、AO・推薦入学者の方が勝る結果となった。

出所)大阪大学 令和4年度 学生募集要項(https://www.nyusi.icho.osaka-u.ac.jp/up/R4_bosyu_yoko.pdf)及び大学担当者へのインタビュー結果より

お茶の水女子大学
新フンボルト入試

研究(探究)活動を試験に組み込んだ評価

文系学科志願者は第1次選考として「プレゼミナール」で大学の授業を実際に体験し、レポートなどを評価(理系学科志願者は書類選考)。第2次選考は、文系の「図書館入試」、理系の「実験室入試」により単なる知識量の多寡ではなく、その知識をいかに「応用」できるかを問う。

一般選抜 | **総合型選抜** | 学校推薦型選抜

スケジュール｜2022年度入試

- 第1次選考:文系・プレゼミナール:2021年9月25日
  理系・書類選考:2021年10月27日出願締切
- 第2次選考:文系:2021年10月16、17日
  理系:2021年11月27日

対象学部｜募集人員

- 文系学科全体｜12名
- 理学部｜20名
- 生活科学部｜4名

選抜方法

第一次選考

- 文系:プレゼミナールを受講し、レポートを作成・提出
- 理系:書類審査(志望理由書・活動報告書・外国語試験成績等を総合的に判定)

第二次選考｜文系 図書館入試

- 1日目:附属図書館の図書などを自由に参照して、課題についてレポート作成
- 2日目:グループ討論、面接

第二次選考｜理系 実験室入試

- 理学部数学科:面接・口述試験(課題を提示し、考察の時間を設定)
- 理学部物理学科:2種類の面接｜問題を解いて説明、探究した内容の説明
- 理学部化学科:テーマに沿った実験を実施・レポート作成し、面接で質疑応答
- 理学部生物学科:自主研究のポスター発表/論述試験と口述試験
- 理学部情報科学科:数学の問題に関する課題を2課題
- 生活科学部食物栄養学科:自主研究のポスター発表、個人面接
- 生活科学部人間・環境科学科:小論文作成、口述試験

プレゼミナールのテーマ｜2021年9月25日開催　※理系の受講は任意

文系:「不思議の世界に飛び込もう」 午前の部 10:00~11:30、午後の部 12:45~14:15		理系 午前の部 10:00~11:30、午後の部 12:45~14:15	
セミナー1(歴史学・日本中世史) 公家視点で振り返る日本中世史	定員30名	セミナーA(数学・力学系理論) 無理数の近似からみる数学の世界	定員20名
セミナー2(米文学・アメリカ南部文学) ポーの「黒猫」を読む	定員30名	セミナーB(物理学・宇宙物理学) 数学を探そう	定員なし
セミナー3(子ども学・教育学) 「奇跡の人」の「奇跡」ってなんだろうか?	定員30名	セミナーC(化学・非平衡系化学) リズム現象に向けられる科学者の関心 ーモデル化学反応で迫る	定員20名
セミナー4(生活文化学・民俗学) 風水ってなに?	定員30名	セミナーD(生物学・発生生物学) ウニの棘(トゲ)はどこにできる? ー海の動物の生活史	定員20名
セミナー5(発達障害児者・臨床心理学) 「ふつう」から「障害」を考える	定員30名		

実施までの道のり ▶ 探究力の考え ▶ 評価の観点

多様性を重視した入学試験

大学教育再生加速プログラムプログラム(AP)への申請を契機に、お茶の水女子大学のAO入試を抜本的に改革し、多面的・総合的に志願者の意欲、適性、能力、基礎学力を見極めるお茶大発新型AO入試(「新フンボルト入試」)の構築に取り組んだ。これまでにない形式の入試とし、多様な学生の入学を求めた。

課題発見・解決する能力

抽象的なテーマに対して課題設定を行って戦略を立てられる能力を求める。(比喩表現として、如何に材料を集め、それを調理し、味付けして最後に美味しい料理にできるかが重要)

課題発見能力・ポテンシャルを評価

図書館入試方式では、正解探しではなく、自分で考える力、課題発見能力を評価。基礎となる材料にどのようにしてたどりついたのかが重要となる。面接等では、大学に入ってから伸びるかどうかの潜在性も評価。入試がピークではなく、入学後、社会に出た後にどうなるかを重視し、豊かな能力を持つ学生を求める。合否層は合議を実施、比重としてレポートにウェイトを置く。

効果・成果

事後アンケートの結果では受験生からの高い満足度が確認され、定量データは無いものの多様な学生の入学に繋がっている感触を現場レベルで得られている。受験を通じて受験者同士の連帯感が構築され、その先の結果として総合型選抜に落ちたとしても一般選抜への出願につながるといった、当初は想定されていなかった効果も見られている。

約 98 %の学生が評価

事後アンケートを実施(回答時点では合否は不明)し、「今後役に立つ」等の回答が約98%あり、受験者から高い満足度を得ている。

多様 な学生が入学

定量的データはないものの、現場レベルでは従来とは異なる多様な学生の入学に繋がっている感触を得ている。

学生同士の 連帯感 の構築

面接後に学生同士がハイタッチするような関係性が見られ、一般選抜にはないこと。リピート率の高さ、一般入試への出願につながっていると思われる。

出所)お茶の水女子大学総合型選抜(新フンボルト入試)(https://www.ao.ocha.ac.jp/ao/index.html)及び大学担当者へのインタビュー結果より

金沢大学
KUGS特別入試

高大接続プログラムと連携した多面的・総合的評価

高大接続プログラムの修了を特別入試の出願資格として付与。「基礎的知識・技能を修得し，それらを活用して自ら課題を発見し，探究する能力を備えている人」、「将来に明確な目標を持っており，主体的に行動し，他者と協働しながら，自身の夢を実現しようとする強い意欲を持っている人」を募集。

一般選抜　**総合型選抜**　学校推薦型選抜

スケジュール｜2022年度入試

- 2021年11月22日、12月4日、2月8、12日

KUGS特別入試には、総合型選抜Ⅰ、Ⅱ、学校推薦型選抜Ⅰ、Ⅱ、英語総合選抜Ⅱがあり、学域に応じて出願可能な選抜方式が異なる。

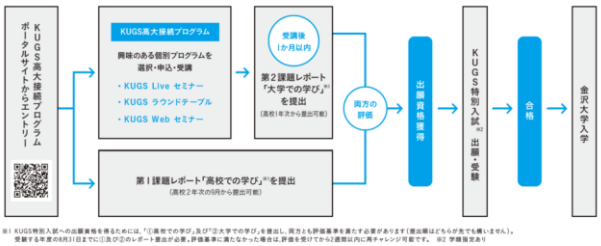
対象学域｜募集人員

- 融合学域｜6 名
- 人間社会学域｜85名
- 理工学域｜23名
- 医薬保健学域(学校推薦)｜60名

選抜方法

出願資格は次の2種類のいずれかを満たすこと

1. KUGS高大接続プログラムでKUGS特別入試への出願が認められた者
2. 国立研究開発法人科学技術振興機構のグローバルサイエンスキャンパス事業(GSC)の第一段階を修了した者



※1 KUGS特別入試への出願資格を得るために、「①高校での学び」及び「②大学での学び」を提出し、両方とも評価基準を満たす必要があります(提出順はどちらが先でも構いません)。受験する年度の6月1日までに①及び②のレポート提出が必要。評価基準に満たなかった場合は、評価を受けてから2週間以内に再チャレンジ可能です。 ※2 学験指定あり

金沢大学〈グローバル〉スタンダードに基づくルーブリック評価

	レベル1	レベル2	レベル3 (一般的な大学生相当)	レベル4 (優秀な大学生相当)	レベル5 (大変、大学院生相当)
A.自己の立ち位置を知る能力	倫理観や科学的知見にやや不足があり、自己の位置・使命についての意識も薄い。	倫理観や科学的知見はある程度持っているが、自己の位置や使命についての意識がやや薄い。	倫理観と科学的知見に基づく視野から自己の位置や使命をある程度把握できている。	倫理観と科学的知見に基づく視野から自己の位置や使命を把握できている。	高度な倫理観と科学的知見に基づく広く深い視野から自己の位置や使命を把握できている。
B.自己を知り、自己を鍛える能力	自己の能力への自覚が弱く、将来の目標が立っていないため、自己を向上させる意欲も薄い。	自己の能力への自覚がやや弱く、将来の目標がぼんやりしているため、自己を向上させる意欲はあるが、それを十分に発揮できていない。	自己の能力を自分なりに認識し、将来の目標を持って、目標実現に向けてある程度努力することができている。	自己の能力を認識し、将来の目標を明確化して、目標実現に向けて努力することができている。	自己の能力を客観的に認識し、将来の目標を明確化して、目標実現に向けて十分に努力することができている。
C.考え・価値観を表現する能力	自身の考えや価値観を表現する力が不十分である。	自身の考えや価値観を表現する力がある。	自身の考えや価値観を表現し、他者に伝えるができる。	自身の考えや価値観を論理的に構成して表現し、他者に伝えるができる。	自身の考えや価値観を論理的に構成して明確に表現し、的確に他者に伝えるができる。
D.世界とつながる能力	自身の持つ文化への関心が薄く異文化を理解し、異文化の人々と共生・共存することの必要性も感じていない。	自身の持つ文化への関心をある程度持っているが、異文化を理解し、異文化の人々と共生・共存することへの関心がやや薄い。	自身の持つ文化への関心を持つとともに異文化を理解し、異文化の人々と共生・共存することに関心を持っている。	自身の持つ文化への関心を持つとともに異文化を理解し、異文化の人々と共生・共存する意欲をもっている。	自身の持つ文化を理解するとともに異文化を理解し、異文化の人々と共生・共存する能力を持っている。
E.未来の課題に取り組む能力※	未来の世界への関心が薄く、未来の課題に取り組んでいく必要性も感じていない。	ある特定の観点から未来を予測し未来の課題に取り組む必要性はある程度感じている。	ある特定の観点から未来を予測し未来の課題に取り組んでいく意欲をもっている。	広い視野から総合的に未来を予測し、未来の課題に取り組んでいく意欲をもっている。	広い視野から総合的に未来を予測し、未来の課題に取り組んでいく能力をもっている。
F.新しい社会を生きる能力※	変化する新しい社会や技術への関心が薄く、新しい情報や技術を習得したり、それらを駆使して社会的課題を解決する必要性も感じていない。	変化する新しい社会や技術への関心をある程度の関心を持っているが、新しい情報や技術を習得したり、それらを駆使して社会的課題を解決することへの関心がやや薄い。	変化する新しい社会や技術への関心を持つとともに、新しい情報や技術を習得したり、それらを駆使して社会的課題を解決することに関心を持っている。	変化する新しい社会や技術について関心と基本的な理解を持つとともに、新しい情報や技術を習得したり、それらを駆使して社会的課題を解決することに意欲を持っている。	変化する新しい社会や技術への理解を持っており、新しい情報や技術を習得したり、それらを駆使して社会的課題を解決する能力を持っている。

※はEまたはFの視点で評価します。レポートにはEまたはFのいずれかの視点が含まれている必要があります。

実施までの道のり

多面的・総合的評価の必要性

受験者が「学力の3要素」の能力・経験を有するか、大学教育を通じて社会で活躍できる潜在力を有するかを、多面的・総合的に評価するためにKUGS特別入試を導入。また、特別選抜において超然特別入試を、一般選抜において主体性等評価も導入し，後期日程を廃止。偏差値主義の立場から離れて、金沢大学に第1希望で入りたい学生を求め、多様性確保を目指す。

探究力の考え

6つのグローバルスタンダード

未知の課題に取り組む、課題探究能力を有する人材確保を目的とし、6のグローバルスタンダード：KUGS(①自己の立ち位置を知る②自己を知り、自己を鍛える③考え・価値観を表現する④世界とつながる⑤未来の課題に取り組む⑥新しい社会を生きる)を満たす、学生を求める。

評価の観点

ルーブリックに基づく評価

KUGS高大接続プログラムで作成するレポートを、KUGS評価基準：ルーブリックに基づき、複数の高大接続コア・センター専任教員が評価。評価のすり合わせの勉強会も実施してルーブリックを改定。評価に大きな差は出ていないが、合否の境目は議論を実施。基準を満たさない場合には再提出を求めるが、専用サイトからの質問が可能であり、担当教員とのオンライン相談も実施。

効果・成果

2021年度入学者選抜からの導入のため、入学後の学生の学修能力等についての分析は今後実施するものの、KUGSの理念に合致する多様な人材確保に至っている感触を得ている。今後、多様なバックグランドや能力を持った学生が集まり、切磋琢磨することで、困難な課題を解決に導くことができる人材が育つことを期待。特別入試による入学者の学修状況や他選抜による学生への影響について継続的な調査を行う予定。

多様 な学生が入学

詳細な分析は今後の実施事項であるが、KUGSの理念に合致する多様な人材確保に至っている感触を得ている。

高校からの **高い** 評価

KUGS特別入試までを通じて、高校の学びの振り返り、大学で何を学べるのかを考える機会を創出する点を、高校から高い評価を得ている。過去から未来まで見る重要な機会。

約 **1,200** 件のレポート

高大接続プログラムを通じて、年間で約1,200件のレポートが提出されている。年間を通じて受講できるプログラムであり、高校の早い段階でも提出を受け付けている。

出所)金沢大学 KUGS特別入試 (https://www.kanazawa-u.ac.jp/education/admission/special/kugs)及び大学担当者へのインタビュー結果より

九州工業大学
総合型選抜Ⅰ

6種の手法を組み合わせた多面的な評価

講義受講のレポート（キーワードの抽出、入学までの学びの振り返り）、課題解決型記述試験、学びの計画書（入学後の計画）、CBT方式の適性検査、グループワーク、個人面接により評価。募集人員は計44名。

一般選抜　**総合型選抜**　学校推薦型選抜

スケジュール｜2022年度入試

- 第1段階選抜：2021年9月18日
- 第2段階選抜：2021年10月16、17日

対象学部｜募集人員

- 工学1類｜5名
- 工学2類｜9名
- 工学3類｜6名
- 工学4類｜3名
- 工学5類｜3名
- 情工1類｜8名
- 情工2類｜4名
- 情工3類｜6名

選抜方法

第1段階選抜：学部のみを指定｜300点

講義レポート	課題解決型記述問題
数学、科学・工学分野の講義（各20分）を視聴し、キーワードを概説。片方の「講義の要約」「高校の学びと絡めて入学までにどのような学びが必要であると考えたか」のレポート作成	小学校～高等学校前半で学んだ理科・算数・数学の内容から示される題材（表や図等）を基に、その提示内容を読みとり、結果・考察としてまとめ、研究課題や新たな授業展開の計画を立案する。

第2段階選抜：志望類を指定｜800点

テーマ例：これまで無くなってきた職業、これから無くなる職業

学びの計画書	適性検査	グループワーク	個人面接
大学に入ってからどのようなことを学びたいかを記述。	数学・理科・英語の適性検査をCBTにより実施。	3～6名の受験者が与えられたテーマでグループ活動。	学びの計画書等の提出書類をもとに、双方向で質疑応答

類	募集人員	第1段階選抜		第2段階選抜						
		レポート	課題解決型記述問題	学びの計画書	適性検査（CBTで実施）				グループワーク	個人面接
					数学	理科		英語		
工学1類	5名	150	150	80	200	200	物理	120	100	100
工学2類	9名									
工学3類	6名				180	220	化学			
工学4類	3名				200	200	物理または化学			
工学5類	3名				220	180				
情工1類	8名									
情工2類	4名	150	150	80	200	200	物理、化学、生物から1科目選択	120	100	100
情工3類	6名				180	220				

※適性検査はCBTで実施
※適性検査の数学は数学Ⅰ・Ⅱ・A・B，理科は基礎の範囲
※英語資格・検定試験のスコア提出があれば，換算点を適性検査の英語に加点。
（配点上限を超えない範囲で，最大24点を加点）
※学びの計画書は事前提出

CBT（Computer Based Test）：タブレットを利用したテスト

実施までの道のり ▶ 探究力の考え ▶ 評価の観点

多様な人材の確保が課題

特別選抜増加の取組が遅れていた（KPIとして3割達成を設定）。単科大学には多様な人材が集まりにくいため、単科大学の特性を活かせる選抜方式を検討。日本を背負って立つエンジニアを育てることを目的。当初は学内でも反対があったが、総合型選抜では一般選抜で理工系に問われなかった部分にフォーカス。

エンジニアとしての言語化能力

エンジニアとして自分の言葉で話す力を求める。これまで入学した学生の現状、そして就職等の出口側から見て、理工系大学出身者はコミュニケーション力の弱さを指摘されているが、これからの人材育成において非常に重要な能力。社会から求められる理工系人材には、聞いたものを自分の言葉で書きだす力が要求される。

高校/在校/卒業生も検証に参加

聞いた内容を自ら書き出す力、応用力等を問う。評価軸は高校へのヒアリング等を通じて検討。出前講義で試験的に高校生に実施し、数年かけて検証を行った。他にもオープンキャンパスで理工系志望者にも実施。評価軸は毎年ブラッシュアップ。OB・OGも検証に巻き込み、卒業後に社会で活用できる力、企業の採用試験で観られる観点等も検証。

効果・成果

具体的な検証はこれからであるが、これまでの一般選抜とは異なる、大学が求める多様な学生の入学に繋がっている感触を得ている。総合型Ⅰは非常に高い評価を得ており、今後、定量的な情報把握に取り組む。特別選抜による入学者はまだ少数ではあるが、今後、入学者の割合が3割となることで学内での波及効果を狙う。

多様 な学生が入学

単科大学として学生の多様性が課題としてあったが、これまでの一般選抜とは異なる、大学が求める多様な学生の入学に繋がっている感触を得ている。

高い コンピテンシー

入試分析より、成績は良いがコンピテンシーが低い学生と、成績は低いがコンピテンシーが高い学生だと、後者はふんばる力が高いことを見出し、入試で取り組む。

CBT による簡素化・迅速化

採点の簡易化・迅速化を狙い、将来を見越して当初から基礎学力試験にはCBTを導入。CBTならではの使い方を今後検証。

出所）九州工業大学 総合型選抜Ⅰ（ https://www.kyutech.ac.jp/examination/gs-comprehensive1.html ）及び大学担当者へのインタビュー結果より

佐賀大学
特色加点制度

合否ボーダー層の主体性評価でミスマッチを解消

受験者は、部活動や探究活動などの取組・成果、入学後の学びへのむすびつきを説明する資料を任意で提出し、大学は主体的に学び続けようとする意欲と態度などを加点評価する。特色加点制度を申請した受験生は、入学手続き率が未申請者よりも高く、大学の求める人材が入学し、これまで大学が抱える課題であったミスマッチの解消へつながっている。

一般選抜　総合型選抜　学校推薦型選抜

スケジュール｜2022年度入試

- 前期:2022年2月25、26日
- 後期:2022年3月12、13日

対象学部｜募集人員

※2019年度に農学部・理工学部で、2021年度より医学部以外の全学部で実施

- 教育学部｜90名
- 芸術地域デザイン学部 地域デザインコース｜40名
- 経済学部｜200名
- 理工学部｜359名
- 農学部｜109名

選抜方法

共通テスト:XX点　個別学力試験:YY点

＋ 特色加点:15～50点　※特色加点は任意申請

教育学部:20点、芸術地域デザイン学部 地域デザインコース:15点、経済学部:15点、理工学部:30点、農学部:50点が、特色加点として最大加算
※共通テスト・個別学力試験での配点も学部によって異なる。

合否判定は学部により2パターン存在

教育学部/農学部

- ボーダー層に限らず、全受験者を採点対象とする(特色加点未申請者は0点)

芸術地域デザイン学部地域デザインコース/経済学部/理工学部

- 共通テストと個別学力試験の点数を合計した成績上位者において、特色加点により合格の可能性が生じる受験者を「1 次選考適格者」とする(ボーダー層抽出)
- 1 次選考適格者を対象に、特色加点を加えた総合計点で合否判定
(特色加点未申請者は0点)

特色加点制度では、出願時に任意で、書類申請システム :J-Bridge Systemより申請書類を提出

1. 活動・実績の名称
2. 活動・実績の主催、認定、授与、発行等の機関の名称
3. 活動期間または実績取得年月日
4. 活動・実績を証明する資料及び参考資料等の添付
5. 活動実績の概要｜規模、参加資格、入賞条件、課題研究の成果など、400字以内で記述
6. アドミッション・ポリシーや入学後の学習との関連性｜「申請する実績・活動を通して身に付けた能力・スキルや経験などが、大学入学後の学習や活動にどのように生かせるか」を、400字以内で記述

実施までの道のり ▶ 探究力の考え ▶ 評価の観点

入学後のミスマッチが課題

共通テスト後に志望度を下げて受験する受験者が多いためミスマッチが生じやすく、その結果、就学状況への影響等が課題であった。高大接続改革答申の政策の後押しも受け、大学独自に検討を開始。学力試験の数点差に学力の明確な順序性があるとは言えず、数点差で合否が分かれるボーダー層の受験者から、少しでも大学が求める人物像に合致する受験者の入学を期待した。

主体的な活動の経験・プロセス

実績よりも、高校入学後に主体的に取り組んだ活動の経験・プロセスを重視(専門分野によっては実績も評価)し、これまでの取組と入学後に学修する内容のすり合わせを期待する。プレゼンスキルや探究の成果の良し悪しではなく、試行錯誤を行い、失敗した時にどのようなことを感じたか、何を学ぶべきだったのか、そういった点を自分の言葉として表現できるかも評価の対象としている。

入学後の学びとのマッチングや教育研究を活性化できる可能性

自ら学びを深めようとする行動や姿勢を通して、学部の教育・研究活動を活性化できる可能性、つまり探究的に学ぶ力を持つ学生を評価。一般選抜は受験者数が多いため書類審査とし、書類審査採点システムを通じてルーブリック等により評価を実施。

効果・成果

特色加点制度を通じて、出願時に自分の学びを振り返り、求められている人物像や入学後に学ぶこととすりあわせを行うことで、ミスマッチを解消。合否ボーダー層に限らず、特色加点制度申請者はアドミッション・ポリシー(AP)への理解、入学後の学業成績、実性・リーダー性等も未申請者よりも高い傾向にある。出願前に生徒が自身の学びを振り返り、APをよく確認して出願する機会を与えられるため、高校教師の目線からも付加価値のある評価として受け止められている。

申請率 62.5 %

2021年度 一般選抜(前期日程)の特色加点制度申請率。任意申請だが、1004/1606名(62.5%)が申請。

気持ちの転換 4.53 /5点

特色加点制度の合格者アンケートで5点満点中、「これまで自分が頑張ったことを振り返る機会となった:4.53点」、「志望学部への入学意思が固まった:4.25点」

入学手続き率 90 %以上

特色加点制度申請者の入学手続き率は90%以上。未申請の場合は10%ほど低い。任意資料に一歩進んで取り組むことが、辞退率低下に寄与する可能性がある。

出所)佐賀大学 アドミッションセンター(https://www.sao.saga-u.ac.jp/admission center/reform/additional/)及び大学担当者へのインタビュー結果より

産業能率大学
一般選抜 未来構想方式

社会課題に対して知識・経験を「活用・応用する思考力」を評価

社会の問題に対し、教科の知識量だけではなく、自身の知識や経験を活かして課題を発見・解決する力を測る入試。試験では、地域課題の解決策を考え、レポートにまとめる。地域の課題に問題意識を持ち、将来「起業家」または「組織のリーダー」となり、課題解決の担い手となることを目標とする人材を求める。

一般選抜　総合型選抜　学校推薦型選抜

スケジュール｜2022年度入試

- 第1日程:2022年2月17日
- 第2日程:2022年3月6日

対象学部｜募集人員

- 経営学部｜10名(経営学科、マーケティング学科 各5名)
- 情報マネジメント学部｜5名

選抜方法

■科目
①大学入学共通テスト

3教科型
令和４年度大学入学共通テストにて、
３教科以上受験してください。(外国語・国語必須)

教科	科目
国語(200点)<必須>	「国語」(近代以降の文章および古典)
数学・地理歴史・公民・理科(100点) 右記科目より１科目選択	「数学Ⅰ・数学A」「数学Ⅱ・数学B」「簿記・会計」「情報関係基礎」「日本史 B」「世界史 B」「地理 B」「政治・経済」「現代社会」「倫理」「倫理、政治・経済」「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」「物理」「化学」「生物」「地学」から１科目 ※理科基礎は２科目で１科目として数えます。
外国語(200点)<必須>	「英語」※リスニング含む 「ドイツ語」「フランス語」「中国語」「韓国語」から１科目

●外国語(英語)は、リーディング(100点)とリスニング(100点)の合計(200点)を採用します。
●複数科目受験の場合は、最も高得点の科目を採用します。

5教科型
令和４年度大学入学共通テストにて、
5教科5科目以上受験してください。

教科	科目
国語(200点)	「国語」(近代以降の文章および古典)
地理歴史・公民(100点)	「日本史 B」「世界史 B」「地理 B」「政治・経済」「倫理、政治・経済」「現代社会」「倫理」から１科目
数学(100点)	「数学Ⅰ・数学A」「数学Ⅱ・数学B」「簿記・会計」「情報関係基礎」から１科目
理科(100点)	「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」「物理」「化学」「生物」「地学」から１科目
外国語(200点)	「英語」※リスニング含む 「ドイツ語」「フランス語」「中国語」「韓国語」から１科目

●外国語(英語)は、リーディング(100点)とリスニング(100点)の合計(200点)を採用します。
●地理歴史・公民、数学、理科をそれぞれ２科目以上受験した場合は、高得点の１科目を採用します。
●理科基礎は２科目で１科目として数えます。

②本学試験

3教科型 ／ 5教科型 共通

事前記述課題	出願期間中に WEB から提出	「持続可能な多様で豊かな社会」を構築するための意欲あるいは「地域創生」への意志など未来への意欲について400～600字程度で記述。
未来構想レポート	試験日に記述	シナリオ(近未来のある地域の社会状況)を読み、課題、解決案を検討し、レポート(本学指定用紙 A3用紙1枚程度)にまとめる。 レポート作成時にスマートフォン・タブレット PC、ノートパソコン、電子辞書での検索可能(※)。

※スマートフォン・タブレット PC、ノートパソコン、電子辞書のいずれか1台のみ持ち込み可能です。活用はあくまで検索のみとし、通話およびSNS、メール等による外部との連絡は禁止です。外部との連絡が発覚した場合は、不正行為となります。

■選考方法

3教科型	5教科型
●大学入学共通テスト 250点(得点率 50%)以上 ●事前記述課題および未来構想レポートの総合判定 ※事前記述課題２割、未来構想レポート８割の比率で判定	大学入学共通テスト5教科5科目の総合得点(700点満点)、事前記述課題、未来構想レポートの総合判定

社会で働く際には情報検索を行うことを前提に、未来構想レポート試験では情報端末(タブレット、スマホ)の持ち込みを許可。
総合評価では、試験当日の未来構想レポートを重視。

実施までの道のり ▶ 探究力の考え ▶ 評価の観点

自校に合う主体性評価を検討

2020年度の入試改革を契機として、2021年度から一般選抜に「未来構想方式」を導入。他大学の主体性評価も参考にしながら検討を重ねたが、最終的に10年以上前から総合型選抜で採用していた課題解決型方式を一般選抜で活用することにした。

自己統制力を求める

産業能率大学では、授業外の学習が多く、自己成長に対してどん欲な、主体的に学習に臨むことができる学生を求めている。一般に、一般選抜ではコンピテンシー、総合型ではリテラシーの評価が難しいが、本来いずれの方式でも両方の資質の把握が必要。そこで、学生の過去の経験から培われた資質・態度にフォーカスして未来構想方式を導入した。

複数名で8段階評価を実施

情報の理解・分析・活用力というリテラシーに加えて、意欲まで含めて評価を行う。社会課題の内容・背景まで汲み取って理解できているかを評価し、問題意識を持って社会を眺めてきた姿勢が表れていると高く評価する。解決策ではこれまでの経験やスキルを試す。総合評価は、事前記述課題 2割、未来構想レポート8割の比率で判定。

効果・成果

単位の取得状況等を全入試区分中での位置付けとしてAO方式や他の選抜と比較し、トップクラスのパフォーマンスを示し、教員側からも意欲の高さに高い評価を得ている。また、一般選抜ではあまり見られない効果として、入学後の学生は自己肯定感を高めていることが効果としてあらわれている。さらに、自分で考えてまとめたものが評価・認められたことにより、他大学に合格しても敢えて本学を選択した学生もあらわれている。

自己肯定感 の醸成

入学後の学生は自己肯定感を高めていることが効果として表れており、一般選抜ではあまり見られないものである。

トップクラスの 単位取得

単位の取得状況等を全入試区分中での位置付けとしてAO方式や他の選抜と比較し、トップクラスのパフォーマンスを示している。

高い意欲

教員側からもフィードバックを行っており、意欲の高さに高い評価を得ている。

出所)産業能率大学 一般選抜 未来構想方式 (https://www.sanno.ac.jp/exam/system/general/fcm.html)及び大学担当者へのインタビュー結果より

島根大学
へるん入試

志望理由書で学びのタネを40字で記載し、面接で深堀

高校生の持つ好奇心と探究心を「学びのタネ」と名付け、令和3年度入試より導入した総合型選抜Ⅰ「へるん入試」により、学びのタネを重視して評価。(入試名は、島根にゆかりのある小泉八雲の呼称「へるん」に由来)

一般選抜 | 総合型選抜 | 学校推薦型選抜

スケジュール｜2022年度入試
- 2021年11月20日、21日

対象学部｜募集人員
※へるん一般型・特定型の合計
- 法文学部｜62名
- 教育学部｜10名
- 総合理工学部｜115名
- 生物資源科学部｜70名

選抜方法

へるん入試は一般型とへるん特定型の2種類｜募集人員
- へるん一般型｜計170名
- へるん特定型
  - 地域志向入試｜島根県・鳥取県枠:計25名、全国枠:計12名、
  - 専門高校入試｜計20名
  - グローバル英語入試｜計15名
  - 芸術・スポーツ・技能入試｜計15名

へるん一般型は計280点満点、特定型はさらに付加評価項目
1. 調査書、クローズアップシート｜80点
2. 読解・表現力試験(全教科の基本となる読解力・表現力をはかる)｜100点
3. 面接(志望理由書を用いて、学びのタネを深堀)｜100点

※総合理工学部の一部学科では 理数基礎テスト｜100点 を追加実施

主な出願書類は3点

①調査書	②クローズアップシート	③志望理由書
「学習成績の状況」、「部活動」・「生徒会活動」・「学校行事」、「探究的な学習の時間」や探究型学習を評価の対象。	高校段階の活動の中で最も力を入れて取り組んだものを一つだけ挙げて、その活動にどう取り組んだのか、振り返って、**800字程度で**記述。	**40字以内**で「学びのタネ」を記述した上で、「なぜ大学で学びたいのか、何を学びたいのか」を記述。

※へるん特定型では、地域志向入試で「地域志向レポート」、専門高校入試で「専門教科の評定、口頭試問、資格・検定」、グローバル英語入試で「英語で記述する志望理由書、英語資格・検定試験」、芸術・スポーツ・技能入試で「実技、レポート等」が付加評価項目。

入学前教育(セミナー、専門課題、英語学習)、入学後教育(所属学科・専攻の教員が専門の学問の話をするゼミ、英語が得意でない学生のための特別クラス)も実施。また、学生同士の学び合いのためのオンラインプラットフォームとして「へるんスプラウトルーム」を立ち上げた。

実施までの道のり ▶ 探究力の考え ▶ 評価の観点

新たな力を持つ人材育成が必要
学力偏差値と切り離し、Society 5.0の実現に求められる、自己決定力や新しい力を持つ人材育成の必要性を検討。学部毎に行っていたAO・推薦入試を見直し、全学で目指すポリシーを立て、統一された入試として「へるん入試(総合型選抜)」を導入。へるん入試導入前の地域貢献人材育成入試では、地域の想いを評価に加えたが、へるん入試では、好奇心・探究心の志向性が高い学生の出願を想定した。

探究を続け、目的へ進む力
受験者自身が、テーマの捉え方、自分なりの問題を追究する手法を自分なりに着眼し、その手法に気付いていることがあり、そういった解の定まらない知的な興奮(探究を続け、目的へ進む力)を持つ生徒を求める。一つのテーマを求めるときも、道筋への柔軟性が語り(面接)の中から出てくることを期待。探究力の把握は難しいため、まずは探究心(探究に向かう気持ち、好奇心)を見る。

興味に基づいて深堀した経験
へるん入試では、興味があることや、知的好奇心に基づいて深堀した経験、あるいは探究し深めた経験があるかを問う。自らにとって探究がどう価値づけられているかを言葉にできるかどうかが重要。「自らがどこに関心があるか」に気づくことが学びのタネとなり、高校卒業後の進路、大学の学部・学科や就職先にも影響する。書類審査、筆記試験、面接により多面的に学力の3要素を評価。各入学志願者の評価は、複数名で実施。

効果・成果

へるん入試で入学した学生は、一般選抜で入学した学生よりも大学の取組への満足度が高い結果を得ている。また、大学内での取組や地域での取組にも主体的に取り組むことができている学生が多いという手ごたえを現場では感じている。

大学への 高い満足度
入学後に、大学の取組に満足しているかどうかを、へるん入試で入学した学生と一般入試で入学した学生で比較すると、前者の方が高い。

入学後も 主体性 を発揮
学生との対話を通じて、自身で何かに取組みたいと考えている学生が多い感触を得ている。学生の協創的な学びのためのプラットフォームとして「へるんスプラウトルーム」を立ち上げた。

地域 からの強い期待
へるん入試導入前の地域貢献人材育成入試の入学生は、地域の企業活動(ボランティア・インターン等)への参画において評価が高い。へるん入試入学生も主体的で協創的な取組に関与し、育つことを目指す。

出所)島根大学 へるん入試概要(https://www.shimane-u.ac.jp/nyushi/hearn_square/hearn1.html)及び大学担当者へのインタビュー結果より

千葉工業大学
総合型（創造）選抜

書類審査・課題演習・面接による多面的・総合的評価

学力試験でははかることができない受験者のやる気と目的意識、キラリと光る個性を重視。受験者が、各学科の求める学生像にフィットした人物であるかどうかを、課題演習や面接等を通じて総合的に判断して合否を決定。

一般選抜　**総合型選抜**　学校推薦型選抜

スケジュール｜2022年度入試
- 2021年10月16、17日

対象学部｜募集人員
- 工学部｜66名
- 創造工学部｜34名
- 先進工学部｜31名
- 情報科学部｜23名
- 社会システム科学部｜45名

選抜方法

学部	学科	出願書類（全学科共通）	選考内容	日数
工学部	機械工学科	入学志願票 自己評価・志望理由書 調査書等 自己PR 書類（任意）	1日目：機械工学に関する講義・演習、及びレポート作成 2日目：個人面接	2日
	機械電子創成工学科		1日目：課題演習の説明と演習、レポート作成 2日目：個人面接	2日
	先端材料工学科		1日目：先端材料の講義および講義レポート作成 2日目：個人面接	2日
	電気電子工学科		1日目：電気電子工学に関する解説および演習 2日目：個人面接	2日
	情報通信システム工学科		1日目：模擬講義および演習 2日目：個人面接	2日
	応用化学科		1日目：課題に答えるための発表資料の作成 2日目：個人面接（発表を含む）	2日
創造工学部	建築学科		1日目：造形課題 2日目：個人面接	2日
	都市環境工学科		1日目：プレゼンテーション資料作成課題 2日目：個人面接（プレゼンテーションを含む）	2日
	デザイン科学科		1日目：課題演習 2日目：個人面接	2日

学部	学科	自己PR 書類（任意）	選考内容	日数
先進工学部	未来ロボティクス学科	入学志願票 自己評価・志望理由書 調査書等 自己PR 書類（任意）	1日目：課題演習 2日目：個人面接	2日
	生命科学科		1日目：プレゼンテーション資料作成課題 2日目：個人面接（プレゼンテーションを含む）	2日
	知能メディア工学科		1日目：プレゼンテーション資料作成課題 2日目：個人面接（プレゼンテーションを含む）	2日
情報科学部	情報工学科		1日目：課題実習（ポスター発表の資料作成） 2日目：個人面接（ポスター発表を含む）	2日
	情報ネットワーク学科		1日目：プレゼンテーション資料作成課題 2日目：個人面接（プレゼンテーションを含む）	2日
社会システム科学部	経営情報科学科		1日目：「経営」に関する課題演習 2日目：個人面接	2日
	プロジェクトマネジメント学科		1日目：プロジェクトマネジメントに関する演習 2日目：グループ面接	2日
	金融・経営リスク科学科		1日目：リスクマネジメントに関する演習 2日目：グループ面接	2日

書類審査、課題演習、面接により、多面的かつ総合的に評価

実施までの道のり ▶ 探究力の考え ▶ 評価の観点

ものづくりへの関心等を求める
総合型（創造）選抜方式は、旧AO入試で2001年から既に実施しており、2008年に課題演習方式を選抜に採用したことがきっかけ。工業大学として、一般選抜以外に特にものづくりへの関心や論理的思考力を持つ学生を求めた。

答えの無い課題に対する思考力
総合型選抜方式で求められる能力は、課題にも応じるものの思考力が問われる。また、課題演習は答えのない課題に対して、トライ＆エラー、誤りを自分で認識して話すことができるかが重要。
出願資格のA～Cのうち、C（強い関心、自身の考えの表現力等）が重要。自己評価シートを用いて、Cに関して具体的に記載・提出し、面接で深堀を行う。

成長のポテンシャルを評価
総合型（創造）選抜方式は5学部17学科それぞれで評価や入試のポイントがある。学科に裁量があり、それぞれ独自性がある。手を動かしてものづくりを行う、プレゼンを行う、レポートを評価する等、多様。いずれも入学後の教育に繋がる入試であることが求められ、観点として、今後伸びるであろう学生を評価する。

効果・成果

総合型（創造）選抜方式の成果としての観点はいくつかあり、モチベーションが高いことが一つ。学科を先導して引っ張っていくような学生が多くみられ、一般入試は滑り止めが多くモチベーションがあがらない中でも、総合型選抜からの学生は活気があり学科を先導していく。他の学生への影響が大きいことが一番の成果と言える。

高い モチベーション
総合型選抜を経て入学した学生はモチベーションが高い。一般選抜は滑り止めが多く、モチベーションがあがらない中で、活気をもって学科を先導する学生が見られる。

高い 満足度
基礎学力は入学時に低くとも、満足度は高い結果。学力も卒業時には一般選抜の学生と比較しても遜色ないレベルに向上する。

リーダーシップ
学科を先導して引っ張っていくような学生が多くみられ、他の学生への影響も大きい。

出所）千葉工業大学（ https://www.it-chiba.ac.jp/admissions/nyushi/ao/souzou/ ）及び大学担当者へのインタビュー結果より

北海道科学大学
新ガリレオ選抜

PBLを通じた探究力育成・ルーブリック評価

新ガリレオ選抜は「育てる入試」をコンセプトとし、仮説、検証及び振り返りのプロセスを通じて、学生自身に成長を促すことを一貫して実施。大学での実学体験型の学びを通して「考えるチカラ」「自分を知るチカラ」「伝えるチカラ」を育て、自己成長のために不可欠な「自ら学ぶチカラ」を高めることを目指したプログラム。

一般選抜　**総合型選抜**　学校推薦型選抜

スケジュール｜2022年度入試

- 事前課題提出:2021年9月15日
- セミナー第1回:2021年9月18日
- セミナー第2回:2021年10月2日
- 入試:2021年10月24日

対象学部｜募集人員

- 工学部｜46名
- 薬学部｜15名
- 保健医療学部｜27名
- 未来デザイン学部｜21名

選抜方法

① 事前課題
- WEB講義を受講し、レポートを作成

② 新ガリレオセミナー｜第1回
- 個人面談:志望学科の教員と面談を実施、レポートに対するフィードバック
- 基礎学力診断:学部ごとに異なる教科で基礎学力を診断

③ 新ガリレオセミナー｜第2回
- 発表・質疑:パワーポイントでの発表、他者の発表への質疑・意見・感想
  ※集団討論を予定されていたが、感染症対策のため実施せず

④入試｜セミナーの受講後、出願資格を得た学生が出願
- 面接および新ガリレオセミナーで取り組んだ内容の発表により選抜
  ※セミナーで取組んだことを発展させて発表できているか、成長度を重視

基礎学力(5教科)向上・学習習慣の定着を狙う外部プログラム、学科教員によるスクーリング(講義・課題提出)の入学前教育プログラムを実施。

セミナーでは「新ガリレオノート」により相互にフィードバック

学生自身が聞いたこと、感じたことを書き、セミナーの度に大学側が確認。相互のやりとりが複数回行われ、セミナー終了後には学生の手元に「学びの履歴」として残る。

新ガリレオセミナーで身につけたい力｜ルーブリック

	論理的にまとめる力	考察を深める力 解決策を提案する力	伝える力
レポート	理解力：講義の内容を正しく理解することができる		
	論理的思考力：講義の内容を論理的な構成でまとめることができる		
	課題発見力：自分なりの課題を発見し、考察を述べることができる		
	表現力：正しい日本語表現により文章を作成することができる		
発表・質疑		表現力：正しい日本語で、相手に伝わるように工夫し、発表する事柄を明瞭に話すことができる	
		分析力：課題を客観的に分析し、課題解決のための道筋を立てることができる	
		遂行力：課題解決方法をまとめた成果物を作成することができる	
		傾聴力：他者の発表を適切な姿勢で聴き、発表内容に対して自分の疑問や意見、感想を述べることができる	

実施までの道のり ▶ 探究力の考え ▶ 評価の観点

多面的評価の必要性

高大接続改革実行プランを受けて、「学力の3要素」「多面的・総合的評価」「協働して学ぶ」をキーワードとし、比較的制約が少ないAO入試から改革。「育てる入試」をコンセプトに選抜を通じて自己成長を図る、新ガリレオ選抜を2016年から開始。探究力育成は、意欲、主体性を持つ人材に入学してもらいたいという思想に基づく。

科学的思考の基本プロセス

「課題発見」→「仮説」→「検証」→「振り返り」の科学的思考の基本プロセスをセミナーの中でPBLとして実施し、育成する。「考えるチカラ」「自分を知るチカラ」「伝えるチカラ」を育て、自己成長のために不可欠な「自ら学ぶチカラ」を高める。過去にはセミナーのテーマ例として「パーソナルモビリティの規制」を設定、実際にセグウェイに乗る/検証機会も与える。

ルーブリックにより評価

ルーブリックにより評価を実施。ルーブリックは受講生へ共有してフィードバックされる。そのため、受講生も理解できる評価軸を設定。事務職員を含む多くの教職員が評価者として参加し、事前研修として大学生による模擬討論を実施。基礎学力も評価しており、2022年度より早期把握を目的に実施時期を見直した。

効果・成果

新ガリレオ選抜の実施により意欲的な学生の入学に繋がり、入学後、様々な場面で、自分から積極的に取り組み、雰囲気が良くなるという効果に至っている。育てる入試として、新ガリレオ選抜を積極的に選んでいない学生も、新ガリレオ選抜の機会を得て人前で話す機会を持つことができるようになった等、成長の実感を得られ、全ての受験生に対してポジティブに働いている。

意欲的 な学生の入学

(学科によりばらつきはあるものの、)新ガリレオ選抜の実施により、入学後、様々な場面で、自分から積極的に取り組み、雰囲気が良くなったという傾向が見られる。

セミナーを通じた 成長

新ガリレオ選抜を積極的に選んでいない学生も、新ガリレオ選抜の機会を得て人前で話す機会を持つことができるようになった等、成長の実感を得られている。

学びの 履歴 として活用

「新ガリレオノート」には、学生自身が聞いたこと、感じたことを書き、大学側と2～3度交換され、最後には学生の手元に「学びの履歴」として残る。

出所)北海道科学大学 新ガリレオ選抜 (https://nyushi.hus.ac.jp/admission/galileo/)及び大学担当者へのインタビュー結果より

立命館アジア太平洋大学（APU）
世界を変える人材育成入試

ロジカル・フラワー・チャートによる探究プロセスを評価

自分なりの「問い」を立て、自分なりの「方法」で、自分なりの「答え（最適解）」を見つける力（探究型の資質や能力）を評価。探究的な学びを深めるための独自の思考ツール「ロジカル・フラワー・チャート」を活用。チャートを用いた事前学習・対策も期待し、思考力を身に着けた学生の受験を求める。

一般選抜　**総合型選抜**　学校推薦型選抜

スケジュール｜2022年度入試

- 第一次選考：第1回 2021年10月11日
  第2回 2021年11月29日
- 第二次選考：第1回 2021年10月31日、11月1日
  第2回 2021年12月19、20日

対象学部｜募集人員

- アジア太平洋学部（APS）｜10名
- 国際経営学部（APM）｜10名

※募集人数は、第1回と第2回の合計。

選抜方法

第1次選考でロジカル・フラワー・チャートを作成、第2次選考で探究的な物の見方や考え方を口頭試問を含む面接で評価

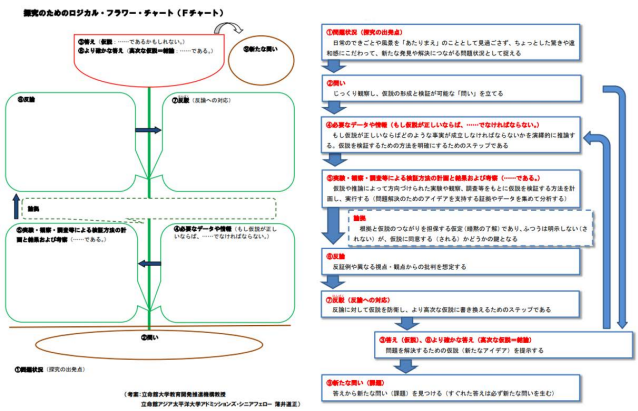
■第1次選考
出願書類による審査 ＋
筆記試験
与えられた資料から、自分なりの「問い」を立て、自分なりの答え（仮説）を設定した上で、設問に解答（試験時間120分）

第1次選考合格者

■第2次（最終）選考
個人面接（約20分）（口頭試問を含む）

選考・評価のポイント
（出願書類）
●志望学部への興味・関心
●入学後の学修等に対する意欲・熱意、記述の論理性や説得力
（筆記試験）
●着眼点や読解力、発想力、論理性などを踏まえた探究的な物の見方や考え方の基礎的素養　など

選考・評価のポイント
●出願書類と筆記試験の解答内容に基づく質疑応答
●APUの多文化教育・生活環境やリソースを積極的に活用し、学び成長することができるかや、探究的な物の見方や考え方　など



実施までの道のり

大学のビジョンに沿った人材育成

2030年にAPUが目指す将来像として2015年に「APU 2030ビジョン」を策定し、「APUで学んだ人が世界を変える」ことを掲げた。この大学の目標と、学習指導要領の改訂を加味し、APUが目指す人材育成ができる入試として、ロジカルフラワーチャート入試を導入。

探究力の考え

自ら考えものごとを作る力

基本的な資質能力（学力）と、自分で考えて論理を構築することができる力、具体的には、文章・情報を正確に読み取ることができるか、自身の考えを的確に表現でき、論理的に説明できるか、更にこれらについて、数理的志向を組み合わせることを理想として、求める力として重視。

評価の観点

問い・仮説の質を評価

自分なりの探究的な「問い」を立て、自分なりの「方法」で、自分なりの「答え（最適解）」を見つける力（探究型の資質や能力）を評価。問いの社会的意義までしっかり書けている受験者は少ないが、問いと仮説がしっかり立てられているかという点において、解答に差があらわれる。複数名の評価者が採点を実施。

効果・成果

2021年度は、ロジカルフラワーチャート入試により入学した1期生の春学期が終わったタイミングであり、他の入学者との比較、成績などについて、今後集計していく計画。最終的には、4年間の成績、進路・就職先や職種・職務内容なども含めて追跡をすることを検討。ロジカルフラワーチャート入試を含めた多面的な評価により、多様な学生の入学につなげることが重要な成果となる。

入学後の 理解 増進に寄与

学生からは、大学の1年生のスタディスキルを学ぶ授業において、ロジカルフラワーチャート入試に近い内容を学ぶため、理解が深まったとの意見もあった。

国際的 にも重要

ロジカルフラワーチャート入試で求められる力は、実態として他国・地域出身の国際学生（留学生）に優位性があり、国内学生に対するロジカルフラワーチャート入試の必要性を指摘する意見が出ている。

全国から 20 校以上

全国の20校以上の学校から、探究教育を実践している高校教師が、視察に来訪し、また、大学主催で解説講座と交流の機会を提供している。

出所）立命館アジア太平洋大学（ https://www.apumate.net/admissions_guide/examination/pdf/2022/guide/guide_06_re.pdf ）及び大学担当者へのインタビュー結果より

探究力評価

民間企業採用試験

住友商事株式会社
デザイン選考

「本質的な課題を発見できる力」を評価

「本質的な課題を発見できる力」を持つ人材を重要視し、オンラインセッション/デザイン思考ワークショップ等により、その能力を4段階で評価、2019年卒採用より開始。「独自性」「創造性」の評価を課題として抱えていたところ、「デザイン選考」を、VISITS Technologies株式会社と共同開発して解決。

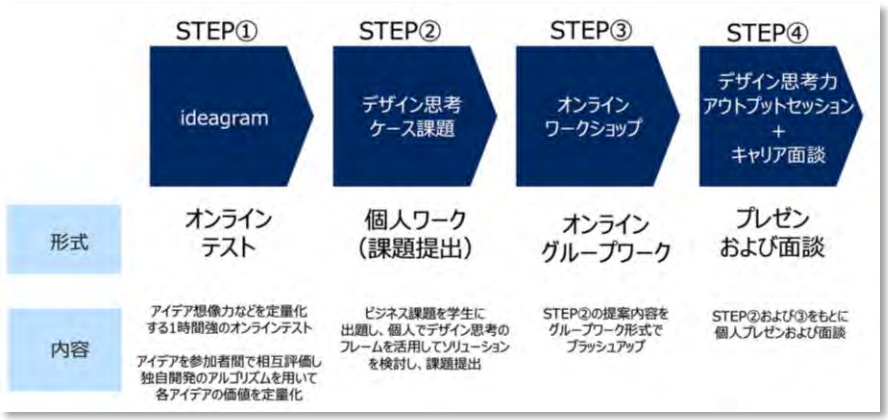
採用方法

人材基本戦略として「Diversity＆Inclusion～多様な力を競争力の源泉に～」をキーワードに掲げ、多様な考え方の受け入れ・新価値の創造を目指している。

多様な価値観が問われる中、世の中のニーズを掴み、ビジネスに繋げていく力を求める。

従来型の面接では、多様な力を持つ学生採用のための「独自性」「創造性」の評価が課題としてあった。

それらの評価が難しい能力・素養を評価するために「デザイン選考」を、VISITS Technologies株式会社と共同開発した。



従来の選考ではアプローチできていなかった人材へのアプローチに成功し、優秀な学生の採用に至った。

出所）住友商事株式会社 事業紹介（ https://www.sumitomocorp.com/ja/jp/business/case/group/cc-210108 ）

デザイン思考テスト｜VISITS Technologies株式会社

デザイン思考力検定試験では、60分のオンラインセッション（創造セッション/評価セッションをそれぞれ30分）により、受検者のデザイン思考力を可視化する。

出所）VISITS Technologies株式会社 デザイン思考テスト（ https://design-thinking-test.com/about ）